

英語における過去完了形について

長 原 和 子

要 旨

本稿では、従来、過去のある時点よりも前に起こった出来事を表すときに用いられると言われている過去完了形が、過去のある時点と同じ時点で起こった出来事やその後起こった出来事を表す場合にも用いられることを例証する。また、過去完了形が確立したと言われる現代英語においても、会話文や過去完了形が連続して使われている環境においては、予想される過去完了形の代わりに過去形が現れる場合があることを論じる。

1. はじめに

複数の出来事が時間の流れの中で、どの順序で起こったのかを言語で表す方法はいろいろある。その中には、各言語に普遍的に見いだされるものから、どちらかと言えば、少数の言語にしか見いだされないものまで様々あることが予想される。時を表す表現や英語の *then*, *afterwards*, *before*, *after*, *earlier* に相当する物事の順序を示す表現は、各言語に普遍的に見いだされるものではないかと想像される。一方、この小論で取り上げる英語の過去完了形は、「過去のある時点より前の過去」に起こった出来事に言及するときに用いられるとされているが、これはおそらく多くの言語には存在しない文法形式ではないかと考えられる。以下では、この過去完了形について、主に Harry Potter シリーズを言語資料として、この典型的な用法から逸脱と思われる例を指摘したいと思う。

2. 過去に連続して起きた出来事の表し方

過去に連続して起きた出来事について、実際に起こった時間的順序ではなく、後に起こった出来事に言及した後に、先に起こった出来事について述べる場合は、現代英語では、先に起こった出来事を表現するために、過去完了形が用いられる。以下では、調査した言語資料の中から、過去完了形のこの典型的な用法が使われている例文を挙げて、この用法について確認をする。

まず、文の主節の動詞に過去完了形が使われていて、その結果、文全体が先に起こった出来事に言及している事例を考察する。(1)においては 実際には、彼が目を開ける前に既に起こっていた、誰かが彼のめがねをはずすという行為についての言及が、彼が目を開けたらすべてが少しぼんやりしていたという後に起きた出来事への言及の後に現れている。このような場合、主節の動詞は、過去形ではなく、過去完了形である *had removed* が使われていて、それによって、時間のずれが

明示されている。

- (1) He opened his eyes.

Everything was slightly blurred. Somebody had removed his glasses.

(HPPA p.418.) (以下、用例中の下線部は、筆者による。)

(1)では、過去完了形のみによって時間のずれが明示されていたが、(2)では、Ron が以前に「呪えメール」を母親から受け取ったのは、Harry と Ron が今受取った手紙が「呪えメール」だとわかったときの1年前の出来事であるという時間的な前後関係が、過去完了形の *had got* だけではなく、時を表す副詞表現 *the year before* によっても明示されている。このように、2つの方法で、前後関係を明示するのは、効率的ではないように考えられるが、調査した言語資料の中には、時を表す副詞表現が存在しているために、過去完了形の代わりに過去形が用いられている‘効率的な’例文は見あたらなかった。

- (2) Harry and Ron, who were sitting opposite him, recognised the letter as a Howler at once — Ron had got one from his mother the year before.

(HPPA p.294.)

次に、文の主節においては過去形が用いられているが、従属節においては過去完了形が用いられている例文を見ていくことにする。(3)では、Ron が前もって Harry (=He) と Hermione のために席を取っていたことを述べている非制限用法の関係詞節において、時間のずれが過去完了形である *had saved* によって明示されている。

- (3) He and Hermione sat down on either side of Ron, who had saved them seats.

(HPPA p.102.)

(4)では、制限用法の関係詞節において、過去完了形の *had given* が使われている。このことによって、Harry がポケットから出したキップは、Hagrid から前もってもらっていたものであることが明示されている。

- (4) ‘Where is this school anyway?’

‘I don’t know,’ said Harry, realising this for the first time. He pulled the ticket Hagrid had given him out of his pocket.

(HPPS p.68.)

これと同様に、過去完了形の *had sat* が、制限用法の関係詞節に現れている(5)は、上記の(2)と同

じように、出来事の時間的前後関係を表す副詞表現である *earlier* が過去完了形の動詞と共起している例文である。このように、現代英語では、副詞表現によって、出来事の時間的前後関係が明示されている場合においても、過去完了形が用いられている。

- (5) The bottle of Rat Tonic was lying under the table they had sat at earlier.
(HPPA p.76.)

(6)では、2カ所の *that* 節のなかで過去完了形が現れている。

- (6) The exam results came out on the last day of term. Harry, Ron and Hermione had passed every subject. Harry was amazed that he had got through Potions. He had a shrewd suspicion that Dumbledore had stepped in to stop Snape failing him on purpose.
(HPPA p.462.)

Harry が驚いた時点と彼が「魔法薬学」の試験に合格した時点の時間のずれと「魔法薬学」の担当教師である Snape がわざと Harry を不合格にしないように Dumbledore が図った時点とそうようにしたのではないかと Harry が考えた時点の時間のずれが、それぞれ、過去完了形の *had got* と *had stepped* によって示されている。なお、(6)の2番目の文の主節の動詞が過去完了形の *had passed* になっていることによって、合格の決定が試験の結果が発表になる前に行われたことが明示的に示されている。

3. 過去に同時に起きた出来事の表し方

本節では、過去に同時に起きた出来事について述べる場合について考察する。一つの方法は、すべて過去形を用いて表すやり方である。(7)は、Snape が透明マントをかなぐり捨てて、突然現れたときの Hermione と Black と Harry の反応を描写している。

- (7) 'That's right,' sneered a cold voice from the wall behind Lupin.
Severus Snape was pulling off the Invisibility Cloak, his wand pointing directly at Lupin.
Hermione screamed. Black leapt to his feet. Harry jumped as though he'd received a huge electric shock.
(HPPA pp.385-86.)

Hermione が悲鳴を上げた時と、Black が立ち上がった時と、Harry が飛び跳ねた時が同時であると解釈するのが自然である。過去形がこのように連続して使われている場合、同時に出来事が起こったと解釈するのは一般的ではない。多くの場合は、(8)のように、書かれた順序に従って出

来事が起こったと解釈される。(安藤 (1983 : 91), Declerk (1991 : 87-88), 柏野 (1999 : 205) 参照)

- (8) Harry went back into the corridor with Madam Pomfrey, who left for the hospital wing, muttering to herself. He only had to wait a few minutes; then Hermione emerged looking very happy about something, followed by Professor McGonagall, and the three of them made their way back down the marble staircase to the Great Hall. (HPPA p.101.)

(8)では、Harry が、Madam Pomfrey と一緒に廊下に出てきたこと、Madam Pomfrey が医務室に向かったこと、Harry がほんの数分間だけでも待たなければならなかったこと、Hermione が出てきたこと、3人で大広間に戻ったことがこの順序で起こったと解釈される。(8)では、さらに *then* や *and* が使われていて、出来事が順々に起こったことが明示的に示されている。Declerk (1991: 88)は、過去に起こった複数の出来事について書かれた記述において、その出来事の時間的な関係を理解する際に、(8)の例文で見たように文の順序や時間関係を明示する副詞表現だけではなく、文脈や私たちが持っている実地的な知識も利用していると指摘している。(7)は、時間関係に関するテキストの解釈が文脈というよりは、私たちの実地的な知識に依存していることを示す例であると考えられる。

出来事が同時に起きたことを表す別の方法は、同時に起きた出来事のうち、あとで言及されている部分の動詞を過去完了形にすることである。(9)では、2番目の文の動詞が過去完了形になっている。これによって、突然の冷たい風が彼の髪をくしゃくしゃにした時点と喫茶店の「三本の箒」のドアが開いた時点はほぼ同時であることが明示されている。

- (9) A sudden breeze ruffled his hair. The door of the Three Broomsticks had opened again. Harry looked over the rim of his tankard and choked. (HPPA p.218.)

(10)においては、ほぼ同時に起こったと考えられる3つの出来事が語られている。

- (10) ‘All right...but you’ll need to help me, Sirius,’ said Lupin, ‘I only know how it began...’
Lupin broke off. There had been a loud creak behind him. The bedroom door had opened of its own accord. All five of them stared at it. Then Lupin strode towards it and looked out into the landing. (HPPA p.379.)

Lupin が話を中断したのと背後で軋む音がしたのと寝室のドアが独りでに開いたのは、ほぼ同時に起きた出来事であると判断されるが、あとに書かれている 2 つの出来事が動詞の過去完了形を用いて表現されている。このように、基準となる過去、たとえば、(9)では、冷たい風が Harry の髪にあたった時点であり、(10)では Lupin が話を中断した時点であるが、その過去のある時点と同時に起こった出来事を表すために、典型的には基準となる過去よりも前に起こったことを表す場合に使われる過去完了形が同じように使われるのは興味深いことである。

4. 過去形の代用について

いくつかの論文において、過去完了形が予想されるところで、代わりに過去形が使われる事例が指摘されている。(Swan (1980: 467-468), 安藤 (1983: 93-95), Declerk (1991: 523-524), 柏野 (1999: 207-212)) 実際に、調査した言語資料の中にも、過去完了形が期待されるところで過去形が使われている例文が観察される。

(11) ‘Did she say who did it?’ said Dumbledore quietly. (HPPA p.175.)

(12) ‘I told you, months ago, that the Whomping Willow was planted the year I came to Hogwarts...’ (HPPA p.380.)

(13) As soon as he found his voice he said, ‘Blown up? You told me they died in a car crash!’ (HPPS p.44.)

(14) ‘And did the Headmaster tell you the circumstances in which your father saved my life?’ he whispered. (HPPA p.309.)

(11)-(14)では、過去完了形の代わりに使われている過去形の動詞は、すべて直接話法構文のなかで起こっていて、さらに発話動詞と分類される *say* や *tell* に後続する従属節のなかで使われているという共通点がある。Declerk (1991: 523-524) は例文 (15) を挙げて、主節にある発話動詞と発話内容を示す従属節の動詞が過去形の場合、状況の時間関係(the relative times of the situations)に混乱が生じなければ、特に話し言葉において、過去完了形が期待されるところで過去形が使われることがあることを指摘している。

(15) He said that Andy left on Monday. (Declerk (1991: 524))

(11)-(14)は、Declerk が指摘している言語観察に添う例文である。しかし、調査した言語資料の中に次のような例文も存在する。

(16) Ron, however, rounded on Hermione.

‘What did you go running to McGonagall for?’

Hermione threw her book aside. She was still pink in the face but stood up and faced Ron defiantly.

‘Because I thought — and Professor McGonagall agrees with me — that that broom was probably sent to Harry by Sirius Black!’ (HPPA p.252.)

(16)において、文脈から判断して、過去完了形の *had been* が予想されるところに現れている過去形の *was* は、(11)–(14)と同じように直接話法構文の中に現れてはいるが、発話動詞ではない *think* に後続する節の中にある。その点で厳密に言えば、(16)は Declerck が述べている事実観察とは相容れない例文であるが、Declerck の事実観察の前半の部分を除いた後半の部分、すなわち、「状況の時間関係 (the relative times of the situations) に混乱が生じなければ、特に話し言葉において、過去完了形が期待されるところで過去形が使われことがある。」のほうが言語事実を正しく捉えていることを示唆しているとも考えられる。あるいは、別の説明の可能性として、「発話動詞」という分類ではなく、Hooper & Thompson (1973) が提案している「断定的述語」という分類を選べば、発話動詞の他に *think* も含まれるので、(16)を(11)–(14)と同じように扱うことが可能となる。また、Declerck の上述の「話し言葉において」と言う指摘と関連して、安藤 (1983: 94) によれば、Curme (1931: 361) も今から80年以上も前に出版された文法書の中で、口語体の英語では過去完了形の代わりに過去形が用いられると指摘して、次のような例を挙げている。

(17) After he finished the book, he returned it.

(Curme (1931: 361))

中尾・児馬 (1990: 109) によれば、古英語では、過去完了形も現在完了形も存在しなかったので、現代英語において、今日過去完了形や現在完了形が使われている環境では、過去形が使用されていた。従って、ある出来事が「過去のある時点よりも前の時」に起きたことは、適当な副詞によって示されていた。中英語になると、過去完了形が「過去のある時点よりも前の時」を明示するために使われるようになってきたがまだ優勢ではなく、特に副詞節では、過去形が選択されることが多かったようである。近代英語以降になって、ようやく過去完了形によって「過去のある時点よりも前の時」を表すことが優勢になってきたようである。長い英語の歴史において、かつては優勢に使われていた過去形が、その当時の用法で、現代英語の口語体の中で使い続けられているのは非常に興味深い。

5. さらに過去完了形の機能について

本節では、過去完了形の機能についてさらに考察する。「過去のある時点よりも前の時」を表す過去完了形の典型的な用法の他に、3節では、「過去のある時点と同じ時」を表す用法もあること

を例示した。これらに対し、調査した言語資料に見られる次の(18)–(19)の例文では、同じような言い方で言えば、過去完了形が「過去のある時点より後の時」を表していると考えられる。

- (18) Harry and Hermione slipped back inside the dormitory. It was empty except for Ron, who was still lying motionless in the end bed. As the lock clicked behind them, Harry and Hermione crept back to their own beds, Hermione tucking the Time-Turner back under her robes. Next moment, Madam Pomfrey had come striding back out of her office. (HPPA p.450.)

(18)では、文脈からも、また、副詞表現 *next moment* が使われていることから Madam Pomfrey がやってきたのは、Harry と Hermione がベッドに潜りこんでからである。

- (19) Madam Hooch's whistle rang out again as she soared over to Montague and began shouting at him. A minute later, Katie had put another penalty past the Slytherin Keeper. (HPPA p.332.)

(19)では、副詞表現 *a minute later* によって明示されているように、Katie がスリザリンのゴールキーパーを破ってペナルティを決めたのは Madam Hooch のホイッスルが鳴り響いてから1分後である。

安藤(1983: 157)も指摘するように、Jespersen(1931: 83)は、(18)や(19)に見られる動詞の過去完了形の用法を「過去時を表す用法」と呼び、過去完了形を用いて表されている出来事が、既に終わっている時が予想されているのであると述べている。

- (20) A little later, when she had revived, we had had tea together, and I had put a few questions to her. (Jespersen (1931: 83))

- (21) In the evening, as he was smoking his cigar on the verandah, a light quick step pressed the gravel of the garden-path, and in a moment a young man, rising before them, had made his bow to Cecilia. (*Ibid.*)

ここまでの事実観察が正しければ、過去完了形には、従来言われてきた「過去のある時点よりも前の時」を表す用法に加えて、「過去のある時点と同じ時」を表す用法と「過去のある時点よりも後の時」を表す3つの用法があることになる。これら3つの用法の共通点は、「過去のある時点」という基準点が存在することである。

6. 過去完了形の連続使用について

最後に、「過去のある時点よりも前の時」への言及が、(1)のように1つの文だけで終わるのではなく、複数の文や複数のパラグラフに及ぶ場合について考察する。調査した言語資料では、「過去のある時点よりも前の時」への言及が長いほうが、過去完了形が予想されるところで過去形が多く使われるという傾向が見られた。

(1) He opened his eyes.

Everything was slightly blurred. Somebody had removed his glasses.

(HPPA p.418.)

(2)では、Ronの古い杖が折れたときの状況が説明されているが、その箇所に現れているすべての動詞が過去完了形を取っている。

(2) Harry remembered only too well the occasion when Ron's old wand had snapped. It had happened when the car the two of them had been flying to Hogwarts had crashed into a tree in the school grounds. (HPPA p.16.)

一方、(23)では、Harryがすべての事情を理解する約2週間前のFudgeの行動を説明している箇所、主節の動詞は予想通り過去完了形である *had been* と *'d made* が使われている。それに対し、従属節では、過去形の *was* と *were* が使われている。主節の動詞の形によって、前もって「過去のある時点よりも前の時」への言及が明示されているので、自然な言語運用であると考えられる。

(23) So Sirius Black was after him. That explained everything. Fudge had been lenient with him because he was so relieved to find him alive. He 'd made Harry promise to stay in Diagon Alley, where there were plenty of wizards to keep an eye on him. And he was sending two Ministry cars to take them all to the station tomorrow, so that the Weasleys could look after Harry until he was on the train. (HPPA pp.76-77.)

次に「過去のある時点よりも前の時」への言及がさらに長い例文を見ていくことにする。Emott (1997: 184)は、Agatha Christieの作品において、5ページ以上にわたって登場人物がある出来事について回想する場面で、主節の動詞が予想される過去完了形ではなく、過去形になっている例を挙げ、回想場面では、過去形と過去完了形が混在することを指摘している。(24)は、登場人物の回想場面ではないが、Emottが指摘している現象が観察される。これは、Harryがおばさん一

家や従兄弟の友人達と動物園へ行く途中の場面で、今までに Harry の身の回りで起こった 3 度の不思議な出来事を読者に紹介している箇所である。

(24) Once, Aunt Petunia, tired of Harry coming back from the barber's looking as though he hadn't been at all, had taken a pair of kitchen scissors and cut his hair so short he was almost bald except for his fringe, which she left 'to hide that horrible scar'. Dudley had laughed himself silly at Harry, who spent a sleepless night imagining school the next day, where he was already laughed at for his baggy clothes and Sellotaped glasses. Next morning, however, he had got up to find his hair exactly as it had been before Aunt Petunia had sheared it off. He had been given a week in his cupboard for this, even though he had tried to explain that he couldn't explain how it had grown back so quickly.

Another time, Aunt petunia had been trying to force him into a revolting old jumper of Dudley's (brown with orange bobbles). The harder she tried to pull it over his head, the smaller it seemed to become, until finally it might have fitted a glove puppet, but certainly wouldn't fit Harry. Aunt Petunia had decided it must have shrunk in the wash and, to his great relief, Harry wasn't punished.

On the other hand, he'd got into terrible trouble for being found on the roof of the school kitchens. Dudley's gang had been chasing him as usual when, as much to Harry's surprise as anyone else's, there he was sitting on the chimney. The Dursleys had received a very angry letter from Harry's headmistress telling them Harry had been climbing school buildings. But all he'd tried to do (as he shouted at Uncle Vernon through the locked door of his cupboard) was jump behind the big bins outside the kitchen doors. Harry supposed that the wind must have caught him in mid-jump.

(HPPS pp.23-24.)

第一パラグラフでは、(23)と同じく、従属節に現れている... *he was almost bald...*, ...*which she left...*, ...*who spent a sleepless night...*, の 3 カ所において、過去形が使われている。さらに、第二パラグラフでは、*The harder she tried to pull it over his head, the smaller it seemed to become...*と... *Harry wasn't punished.* において、主節の中に現れている動詞も過去形になっている。最後に第 3 パラグラフでは、従属節...*as he shouted at Uncle Vernon...*と主節 *But all he'd tried to do... was jump behind the big bins...*と Harry

*supposed that...*において、過去形の動詞が使われている。(24)では、3つの異なる時期に起こった事件が、それぞれ3つのパラグラフに分けられて語られているが、主節の動詞に過去完了形が期待されるところで過去形が使われている場合はすべて、前もって過去完了形が使用された後で使われているという共通点が見られる。

また、Emott は、小説の中の回想場面がイタリック体を用いてすべて過去形の動詞で書かれている例やイタリック体を用いずにすべて過去形の動詞で書かれていて、Emott 自身も初めて読んだ時は混乱してしまったという例を挙げている。そのような例と比べると、(24)は通常の言語使用に近い例である。

7. おわりに

本稿では、従来過去のある時点よりも前に起こった過去の出来事を表すときに用いられるとされてきた過去完了形が、過去のある時点と同じ時点に起こった出来事やその後に起こった出来事を表す場合にも用いられることを例証した。また、過去完了形が確立したと言われる現代英語においても、会話文や過去完了形が連続して使われている環境においては、予想される過去完了形の代わりに過去形が現れる場合があることを論じた。今回事実調査に利用した資料は、イギリス英語で書かれた児童文学書であるので、今後さらに広範囲の言語資料を調査することが必要である。また、本稿で観察した過去完了形の用法が、Hornstein (1990) や Declerck (1991) などの時制の理論的研究を応用してどのように説明できるかに関しては今後の課題としたい。

例文出典

J.K. Rowling, *Harry Potter and the Philosopher's Stone*. Bloomsbury, 1997.

J.K. Rowling, *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban*. Bloomsbury, 1999.

参考文献

安藤貞雄. 1983. 『英語教師の文法研究』大修館書店.

上田明子. 1999. 「過去完了形を中心にして」『英語教育』8月号: 46-49.

柏野健次. 1999. 『テンスとアスペクトの語法』開拓社.

中尾俊夫・児馬修. 1990. 『歴史的にさぐる現代の英文法』大修館書店.

Curme, George O. 1931. *A Grammar of the English Language, Volume II: Syntax*. Reprinted 1977 by Verbatim, Essex, Ct.

Declerck, Renaat. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha.

Emmot, Catherine. 1997. *Narrative Comprehension*. OUP.

Hooper, Joan B. & Sandra A. Thompson. 1973. "On the Applicability of Root Transformations." *Linguistic Inquiry* 9, 465-497.

Hornstein, Norbert. 1990. *As Time Goes By: Tense and Universal Grammar*. Cambridge, Mass.: The MIT Press.

Jespersen, Otto. 1931. *A Modern English Grammar, Part IV*. London: George Allen & Unwin.

Quirk, et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

Swan, Michael. 1980. *Practical English Usage*. OUP.